

愛媛県知事賞 中学生・作文

「土砂災害と人々の工夫」

三津浜中学校 二年 田村 奈々^{たむら なな}

令和になり土砂災害のニュースをよく見るようになった。自分の親戚の家の近所でも土砂災害がおこった。それは生活にどんな影響をあたえたのか聞いてみた。

高浜に住んでいる祖父母やいとこから話を聞いた。前日の雨が影響し土砂くずれがおきた。場所はトンネル付近の斜面。とくに被害をうけた人はいなかった。祖父母はトンネルを通り、よく高浜観光港方面に行く。土砂くずれが起こった直後に高浜トンネルを通るのは少し不安があると言っていた。私も「またくずれてこないかなあ」という心配が少しあった。

次に興居島にいる曾祖父と曾祖母に話を聞いてみた。曾祖父母は山でレモンやびわなどを育てている。私はよくレモンをもらったり、キャリーを運んだりして手伝っている。曾祖父母の山は土地が広く、斜面が急なところがあるのでレモンをもらったり、荷物を運んだりして山を登り下りするのは結構大変だし疲れる。そんな斜面が急なところで土砂くずれが起こってしまい、曾祖父母の山に被害をあたえた。土砂災害が起こってしばらくしてから私が山に登ると曾祖父母の山だけではなく他の人の山まで大きな被害をあたえていた。曾祖母と時々一緒に山にあがる。山に登った時曾祖母は「大変だ」とつぶやいていた。

その土砂災害が起こり、数年たった現在。大きな被害を受けた高浜トンネル付近の斜面には、間知ブロックという山が崩れるのを止める役割のあるコンクリートブロックが設置されていた。そのトンネル付近だけではなく高浜地区の斜面が急なところや土砂くずれが起こりそうな場所全体にまで間知ブロックを設置していた。曾祖父母の山では、祖父を中心とし土砂くずれの被害を受けた石垣や斜面をなおしたり、他にも、もう一度同じ被害をうけないようにと山の傾斜が急な上の方には、レモンの木を新しく植えないようにするなどの工夫もした。土砂災害が起きたことをきっかけに土地を強化したり、傾斜が急じゃなく荷物運びもしやすいところに新しい植木を植えてみたり畑を作ったりと、よりよい山にしていこうというプラスに考える面もあった。

間知ブロックの設置や山をもっとよりよくするための改善など、そんな大掛かりなことではできない。でも、自分たちにも土砂災害の被害を少しでもおさえることはできないかと考えた。

一つ目にできることは、自分たちの身にも被害を受けそうになった時にすぐその場から逃げられるよう避難バッグ、または防災バッグを用意しておくことだと思う。それも、自分の分はもちろんだけど、自分の家族や親戚の分まで用意しておく。そうすることでもしもの時に自分に頼ってもらえる。逆の場合でも周りの人に頼ることができる。

二つ目はニュースをきちんと見ることや周囲の状況を少しでも把握しておくことだと思う。ニュースを見たり聞いたりしていないと自分が今いる場所はどのくらい安全か。どのくらい危険かが分からない。だからニュースを見て危険なら早めに避難し、安全ならば家で待機するなど状況に応じて行動しないといけない。周囲の状況を少しでも把握しておくのは自分の身の周りの物であったり、近所の人であったりする。いざ避難しなければならぬという時に、どこを通れば一番安全に避難できるか、土砂災害が起きた時にどんな物が身近にあると危険かをしっかり考える。そうすれば避難の呼びかけができる。自分の命を守るだけでなく、自分ができるところを見つけて出し家族や周囲の人々にも尽くすことも大切だと思った。

三つ目は土砂災害警戒レベルを知っておくこと。レベル一は今後の情報等に留意。レベル二(注意報級)は避難先、避難経路の確認レベル三(警報級)は土砂災害警戒区域等の外への避難。ここで高齢者は避難しとかなければならない。レベル四は命に危険が及ぶ土砂災害が発生してもおかしくない状況。レベル五は命に危険が及ぶ土砂災害がすでに発生しているもおかしくない状況である。見て分かる通り、レベル四とレベル五は命に関わってくる危険な状況。だからレベル三の時点で避難する。または、自ら判断することが大切。

土砂災害は豪雨や台風の後だけに起こるものだと思っていた。でも祖母や曾祖母の話を聞いていつ、どこで災害が起きるのかは分からないことを知った。そのために、しっかり間知ブロックを設置し、土砂災害の防止対策を行っていくべきだと思った。自分自身も大きな被害にあわないために自分にできることはなにかを考え、行動することが大切だと気付くことができた。

(1853字)